

先週の土曜日、増強・親睦合同IMの開催があり、入会3年未満6人の会員も参加していただき、ロータリーの思いやりの心を私も学ばせていただき、奥村さん、天羽ガバナー補佐ありがとうございました。寺尾委員長、中川 尚美委員長もご苦勞様でした。

平和の祭典オリンピックが閉会しましたが、日本の若者、選手たちの素晴らしい演技、スケートにおいても活躍をし、多くのメダルを獲得しました。TVを見ておりまして感動したのは、女子のパシュートです。個の強いオランダを破り、金メダルは見事でした。

五輪の日本最初の金メダリストである陸上競技の三段跳びの織田幹雄の言葉に「強いものは美しい」とありますが、ワンラインといわれる隊列、スピードをゆるめない先頭交代、すべて美しかったと思います。美しい姿を作っているのは、単調な練習の繰り返しだと想像しましたし、技術を磨くためには単調な練習の反復が重要だと思います。でも単調な練習は決して楽しいものではありません。何千回何万回と繰り返しているとあるとき、何かが降りてくる。コツをつかむ瞬間とでも言えばいいのでしょうか。その成功体験が次の技術を身に付けるための単調な練習に耐えるエネルギーになるでしょうし、そういう瞬間を積み重ねてきたのだと思います。高木姉妹の8年間、苦難を乗り越え栄光をつかんだ妹の美帆さんは中学3年生のときバンクーバー五輪に出場しましたが、1000mが最下位の 35 位。そして4年後ソチ五輪は落選しました。彼女は身体能力が非常に高く、道内の中学サッカー男子に混じり、FWをしていたくらいですから。自分のスケートに対して甘さに気づき、練習に打ち込む姿勢に変化が表れました。また挫折を経験し、つらくなってもあきらめず試行錯誤しながら自分の体型にあったスケーティングを見出しました。10 代半ばで注目された選手というのは、その後伸び悩み消えていくというパターンにはまりがちです。例えばバルセロナオリンピックで金メダルを取った水泳の岩崎恭子などはそのパターンに当てはまると思います。彼女も普通なら消えていくパターンだと思いますが、復活しました。その根性の源は、北海道の厳しい自然のなか中学時代から新聞配達をしていたという経歴にあるのかもしれませんが。さらに超ポジティブであり、すべて良いように考えるタイプだそうですが、ここにいたるまでの8年間は我々に想像できない、また色々な葛藤、それを乗り越えた金メダルは本当に感動させていただきました。また新種目のマスタートで妹の影に隠れることが多かった姉の菜那さん最後に大仕事をやってのけてくれました。

1月には泉先生の指揮のもと、フェスティバルホールにおいて井上先生と中川尚美さんの姿に感動し、3月はどんな感動が味わえるか楽しみにしています。

そして最後に甲子園ロータリーも美しいクラブであり続けたいと願います。